

令和元年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校 第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	
国語	全体的な値としては全国の平均値を上回る結果となったが、書く能力に課題が見られた。解答形式についても選択、短答に比べて記述の正答率は低い。書くことについて苦手意識をもつ生徒が多いことは授業の様子からも窺える。文法上の主語と述語を適切に対応させて書いたり、一文を短くして分かりやすく書いたりする基礎的な力が不足しているため、そこを補う必要がある。また、語彙力の不足が目立つ。	150字から200字程度の文章作成に取り組み、書く作業に慣れさせる。文章作成の過程で語彙力の向上を含める。本人にフィードバックすることで生徒が自分の課題や成長を客観的に把握できるようにする。また読解の指導と関連づけて、読み取った内容を自分の言葉で再構成する活動を授業内で取り入れ、読む力とともに書く力の向上に努める。	
数学	清瀬市学力調査では、清瀬市の集計結果とほぼ変わらない結果となった。観点別でも目標値に対して同程度だったが、数学への関心・意欲・態度は若干上回る結果となった。しかし、意欲はありながらも結果を出せない生徒も多い。まずは繰り返し取り組むことで結果につながることを実感させることが課題である。	意欲を学習に結び付け、学習すればするほど結果が出せることを意識づけする。そのために課題を週末に配布し、週明けに課題の中から小テストを実施する。週末に配布することで家庭学習の習慣を身につけることができる。また課題の中から小テストを実施するので取り組みやすく、結果も出しやすい。	
社会	教師の発問に対する答えを近くの人と相談してもよい、と伝えたと抵抗なく話し合う生徒が多く見られ、学び合い学習の基礎ができている。反面、生徒間の能力差が大きく見られ、ノート作成、問題演習等に到達度の高い生徒とそうでない生徒でかかる時間や完成度が大きく異なる。	・苦手な生徒には机間指導を行ったり、全体で問題演習を解くための既習事項の確認を必要に応じて行う。授業中の演習問題を終えた生徒が取り組める復習問題を授業プリントに用意しておく。	
理科	・前向きに取り組む生徒が多いが、集中できない生徒もいる。話し合い活動も取り入れてはいるが、少数数班に分けたときに話し合えない班が生まれてしまう。家庭学習については取り組めていない生徒も見受けられる。	理科を今まで以上に関心が持てるよう、身近な例などをより多く例示する。演示実験も含めた実験を多くとりいれたり、自分で作図などの作業をする機会を増やし、班での教え合いや話し合い活動により定着ができるようにする。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。鑑賞は、男女に関心意欲の差がみられる。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書きし、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。 ⑤様々な楽器を体験させる。 ⑥鑑賞文の書き方を国語科、美術科と横断的に情報交換しながら行う。	
美術	・授業に集中し取り組み、各活動に真剣に取り組む様子がみられる。 ・他者の取り組みに対して興味をもち、他者から学ぼうとする姿勢がみられる。 ・造形的にも言語的にも表現の経験値に差がみられる。	・他者との関わりから学ぶことができる機会を増やす(グループワーク、鑑賞会等)。また表現経験が乏しいと思われる生徒へ個別に声かけを行い、表現方法を広げるための方法に気づきができるよう引き出していく。	
保健体育	<男子・女子>授業に対して、前向きに取り組もうとする生徒がほとんどである。運動に苦手意識の高い生徒がいる。仲間に対する意識が希薄であるように感じる。	<男子・女子>スモールステップで行い、T.Tを有効活用し、技能を習得させていく。班での活動や教え合いの場面を増やしていく。	
技術・家庭	小学校からの家庭科や図画工作科の蓄積がかなりあり、授業での躓きは少なく、作業にも意欲的に取り組む姿がみられる。一方、「なぜこの作業をする必要があるのか」「なぜこのような注意をするのか」といった理由や経過に着目する事が苦手で、実習計画を見通すという意識が希薄である。また、知識や理論といった基礎を習得するモチベーションは高くなく、定着率にはかなりのばらつきがみられる。	授業開始時に作業の進捗を必ず確認し、今自分が作業計画のどの位置にいるのかを必ず把握させる。また、題材のねらいや締切日なども必ず定期的に確認し、進行管理の意識をもたせる。知識や理論については、日常的なかにある具体例を挙げる事で生徒のモチベーションを高め、「なぜ」「どうして」といった理由を踏まえて、技術を適切に評価し活用する能力を養う。	
外国語(英語)	小学校で英語に慣れ親しんできた経験もあり、口頭練習で大きな声を出すなど意欲的に学習に取り組む姿がある。また、入学時より「Do you like ~?」などの表現が既に身につけていて、自ら使用することができる生徒も多い。しかし自己紹介作文や日頃の単語テストを通して、中学校から本格的に始まった「書く」ことには苦手意識をもつ様子が見られた。	授業の最初に単語ビンゴを行い、その単語をテストすることを継続して行う。単語単位で書くことから始めて「書く」ことに慣れ、力をつけていく。また、学期や単元を通しての目標を常に示し、見直しをもって学習に取り組ませ、意欲的な学習態度の継続、向上を目指す。今求められる即興的に英語を活用する力も3年間を通して段階的に指導していく。	
総合	授業に対してかなり前向きに取り組む様子がみられる。ゲストティーチャーの講義やグループでの話し合い活動など、どれも積極的に取り組むことができおり、生徒どうしの交流が非常に活発である。ただし、題材におけるねらいを生徒たちがうまく認識できていない事があり、生徒たちが目的意識なく活動を実施してしまっているような様子が時折みられる。また、指示がうまく伝わらず、授業中にどうしていいかわからない様子が見られる。	ねらいに対する意識が希薄なため、生徒それぞれがねらいに対する目的意識を持てるような工夫を行う。具体的には、郷土、福祉、進路など、生徒たちにとって身近な題材を効果的に例示する事で生徒たちのねらいに対する意識を向上させ、より効果的で密な学習活動を行えるようにする。また、三年間を通じた指導計画を用いて、多面的かつ計画的な指導を行う。	
道徳	多くの生徒が積極的に授業に取り組んでいる。意欲的に発言して自分の考えを述べている生徒は一部に限られてしまっている。しかし、発言のない生徒もワークシートには自分の考えを書き、考えることができている。	ペア、グループなどで議論する場面を作り、まずは小集団の中で生徒一人一人が自分の考えをもち、発表することに慣れさせていく。正しい答えを追求するのではなく、発問に対して自ら考えたり、他者の意見を聞くこと大切に授業を作っていく。	